
これからのICT教育のあり方

-ICT利活用調査部会の調査結果から-

大学ICT推進協議会 (AXIES)

ICT利活用調査部会

主査 重田勝介 (北海道大学)

ICT利活用調査部会の活動目的

- ・ 高等教育機関におけるICT利活用の重要性
 - 大学教育の質向上やスケーラビリティの確保
 - 多様な学び手に対する学習機会の提供手段
- ・ ICT利活用の実態把握が不可欠
 - エビデンスに基づいた利活用の未来像提示
- ・ 国内外におけるICT活用教育の調査を実施
 - 文部科学省（委託調査）の調査項目を引き継ぐ
 - 調査項目のICT利用形態の変化を踏まえた継続的見直し

これまでの活動

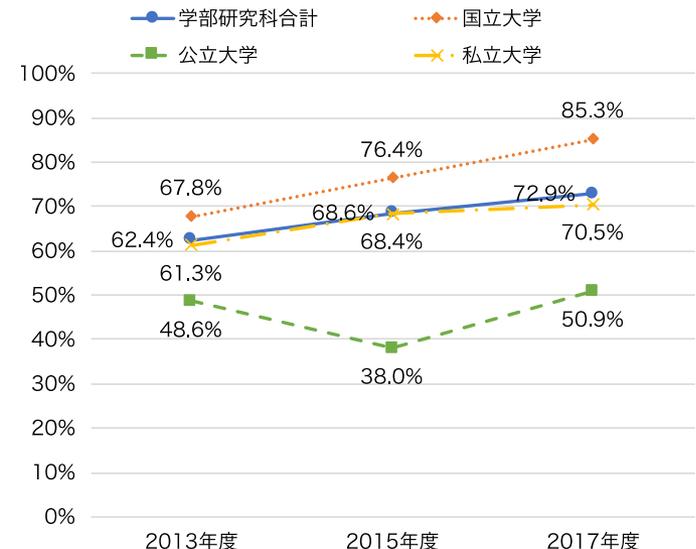
- ・ 2015年度
高等教育機関におけるICT利活用調査の実施
- ・ 2016年度
BYODの教育利用に関する調査の実施
- ・ 2017年度
高等教育機関におけるICT利活用調査の実施

- ・ 報告書をAXIES HPで公開中
https://axies.jp/report/ict_survey/



ICT利活用調査の結果から (1)

- ・ ICTの利活用は継続して進んでいる
 - ICTの重要性はますます認識されている (9割)
- ・ 学習管理システム (LMS) の普及
 - 授業外学習における利用も増加
- ・ 履修登録システムの普及
 - 大学で86% シラバスの公開も同様
- ・ eポートフォリオの普及
 - 大学で47%
- ・ 無線LANやメール等の基礎的なインフラは整備が完了



LMSの普及が進む

ICT利活用調査の結果から (2)

- ・ 学内資金に頼るICT環境の整備 ※複数回答可
 - 大学で83% 外部資金25%
- ・ 推進資金は減少
 - 大学で顕著 (右表の通り)
- ・ 推進主体は学内兼任者
 - 専任スタッフの不足
- ・ 教材開発の乏しさ
 - 他大学の教材共有は6% (大学)
 - OER, MOOCの提供も減少傾向

	2015年	2017年
50万円以下	7.3%	6.9%
51~100万円	4.0%	3.2%
101~500万円	19.8%	20.1%
501~1,000万円	10.3%	14.3%
1,001~3,000万円	22.1%	15.5%
3,001~5,000万円	6.5%	6.1%
5,000万円以上	13.3%	15.0%
分からない	16.8%	18.9%

推進資金は減少傾向

ICT利活用調査の結果から (3)

- ・ 今後3年間で取り組みが必要な事項
(括弧内は「とても重要である」と回答した大学の割合)
 - ネットワークおよびセキュリティの強化 (71.3%)
 - 経年機材の更新に向けた予算確保 (58.3%)
 - 技術的なトラブルへの備え (48.4%)
 - 学内ネットワークの刷新 (46.5%)
- ・ 回答割合が低かったもの
 - モバイル端末導入支援、オンライン教育の推進
 - BYOD支援、他機関とのサービス連携、SNS活用

ICT教育の取り組みが環境整備に向かいがち

ICTを使った教育・学習支援に行き届かず

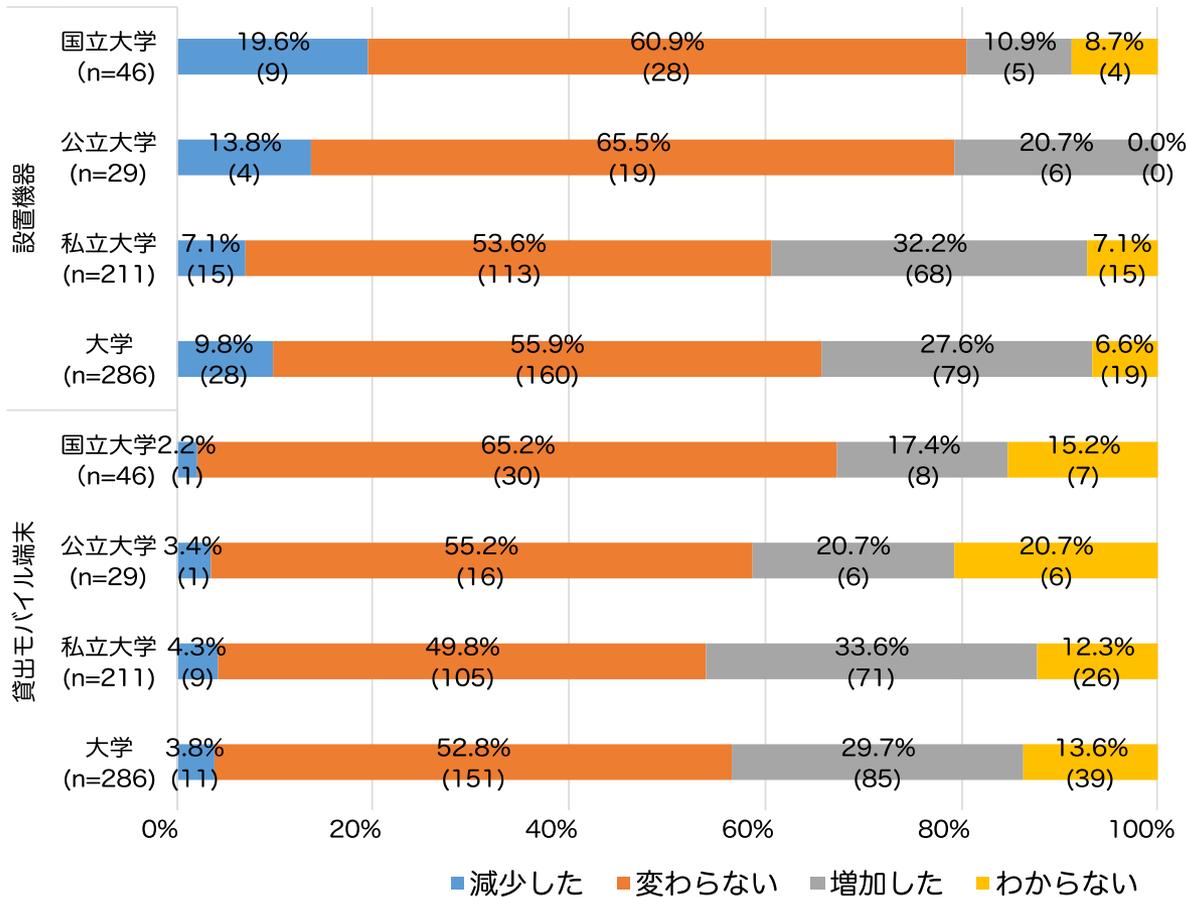
ICT利活用調査の結果から (4)

- ・ ICT導入で期待される効果
 - 便利な環境、意欲向上、効率化、質向上が高い
 - 増えたもの：AL型授業、予算コスト削減
 - 減ったもの：単位互換、教材の共有
- ・ ICT導入で得られた効果
 - 5～6割が効果が見られたと回答
 - 便利な環境、意欲向上、効率化、質向上が高い
 - 増えたもの：教育の質向上、効率化
 - 減ったもの：修了率向上、外部コンテンツの活用
- ・ 阻害要因は予算・人員・スキルの不足

BYOD調査の結果から (1)

- ・ 導入校における2年間のコスト変化を4項目で調査
 - 設置機器：
 - ・ コンピュータ室などに固定設置を行ったPCにかかる費用
 - 貸出モバイル端末：
 - ・ 一時的または長期的に学生や教職員に貸出するモバイル端末にかかる費用
 - インフラ・ソフトウェア：
 - ・ ネットワーク設備やソフトウェア設備などにかかる費用
 - サービス：
 - ・ 技術・教育支援を行うサービスにかかる人件費等

BYOD調査の結果から (2)



「設置機器」「貸出モバイル端末」のコストは変化しない傾向

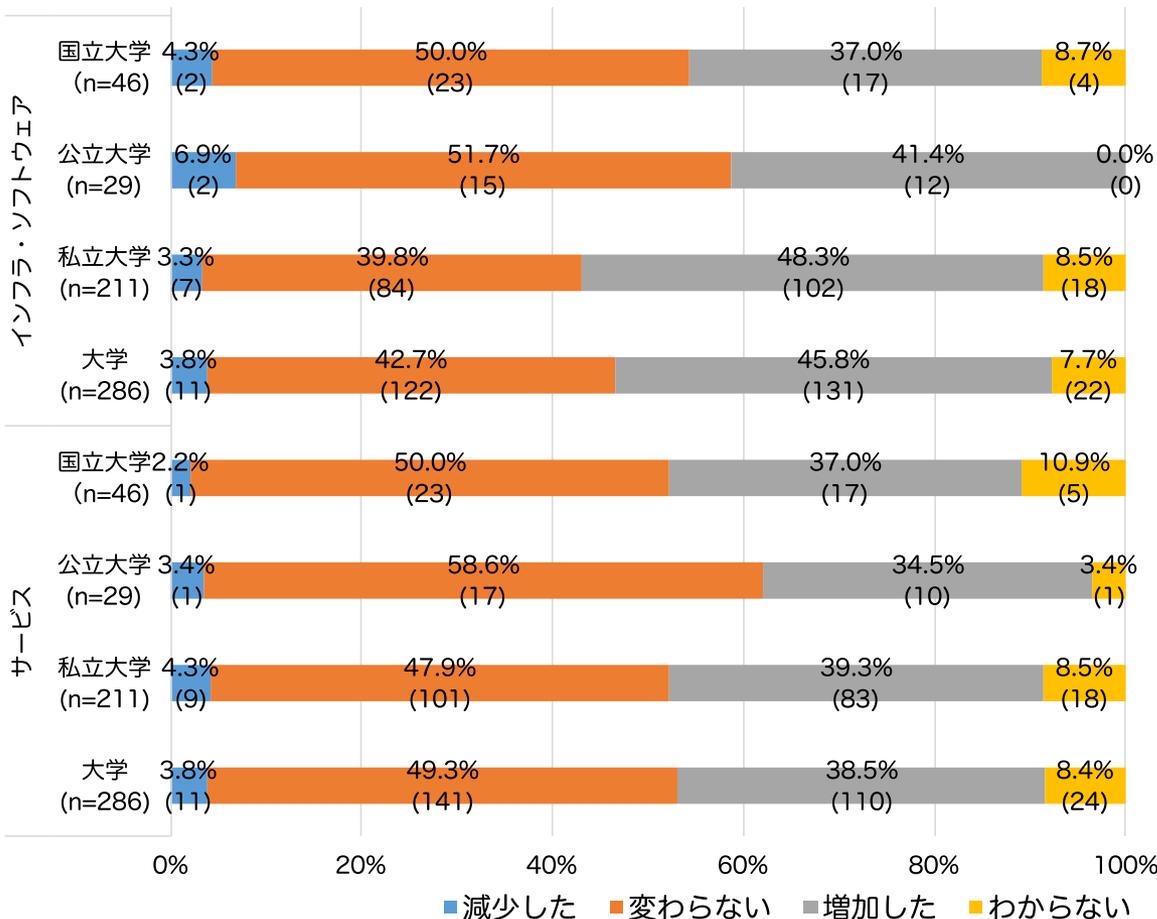
本来BYOD化で減るはずのコストに変化なし



学内端末・貸出端末を志向するユーザーが存在？

サービスの「多様化」と「維持」を並行実施？

BYOD調査の結果から (3)



「インフラ・ソフトウェア」「サービス」のコストは変化なしまたは増加

ソフトウェアライセンスの提供やヘルプデスクの設置にコストを要している？



BYODの導入でコストは増加傾向になる

当然サービスは向上するが
・負担減にはならない様子

これからのICT利活用に向けて

- ・ ICTを活用した教育・学習支援が主眼となる
 - インフラの整備は完了しつつある
- ・ 推進予算を維持するために効果の見える化が必要
 - 教育の質向上と効率化をデータで示す
- ・ サービスの多様化への対応が課題
 - BYODが好例
 - 何をはじめて、何をやめるかの見極め
- ・ コスト・人員・人材育成も課題
 - 機関をまたいだ知識・事例共有が不可欠

2020年度調査について

- ・ 2020年11月頃に継続調査を予定
- ・ 過去調査と同様の質問により変化を把握
- ・ オンライン授業の実施状況について追加質問
- ・ 高等教育機関の皆様におかれましてはご協力の程宜しくお願い申し上げます